創刊号
01
2025.3 発行

社内報

デルタ総研だより

interview

磯部 丈太郎（いそべ じょうたろう）

法人サポート部 法人サポート1課

2024年４月、新卒採用で株式会社デルタ総研の一員となった磯部丈太郎。現在は、法人サポート部法人サポート１課で、顧客のネットワーク整備全般を担当している期待の人材だ。磯部はデルタ総研のどのような点に魅力を感じ、地元新潟から離れた東京での就職を決意したのだろうか。そして、実際に始まった新社会人生活とは……。さまざまなエピソードに触れながら、知られざる一面に迫った。

希望を持って新たなステージに立つ

ＩＴ系の専門学校で主にプログラミングを学び､「風通しの良い社風」を軸に就職活動を行っていた磯部。そのなかで出会ったのがデルタ総研だった。

「元請けや一次請けの案件が多く業務の幅が広い点や、資格取得の報奨金や能力に見合った昇進など、社員のスキルアップを後押ししてくれるところに魅力を感じました」。

説明会へ赴いた際に対応してくれた採用担当者や、面接で顔を合わせた社長の福原の人柄にも強く心を引かれた。目の前の相手にリスペクトを持って接してくれる姿勢や、仲間思いでサポートの手厚い社風が言葉の端々から伝わってきたのだ。磯部はデルタ総研の内定を手にし、社会人としての第一歩を踏み出す運びとなった。

信頼できる仲間たちと共に

現在は大手電機メーカーに常駐し、ＩＴ関係の困りごとサポートや、申請業務の代行に従事している。専門学校で身につけた知識を活かして問題を解決できるのは、大きなやりがいを感じられる

瞬間だ。とは言え、社会人としての経験はまだまだ浅く、イレギュラーな案件が飛び込んできて戸惑うこともしばしばある。そうした場面で頼りになるのは、やはり先輩社員の存在だ。

いつどのような質問をしても丁寧に答えてくれ、困っているときには声をかけてくれる先輩社員がいるからこそ、日々の業務に前向きに取り組むことができている。意見を出し合いながら対応策を共に考える時間は、就職活動で軸としていた「風通しの良さ」を肌で感じる瞬間だ。

また、日常業務に加え、現場の効率化を図るシステムづくりも任されている。専門学校で学んだプログラミングの知識を活用できることは、大きな喜びの１つだという。

新生活で広がる自分の世界

学生から、社会人へ。立場が大きく変わると同時に、磯部にはもう１つ大きな変化があった。生まれ育った新潟県長岡市を離れ、東京で一人暮らしをすることになったのだ。新生活のスタートに心を躍らせながらも、頭の片隅には「一人でちゃんと生活していけるだろうか」という不安があったのも事実だ。

実家暮らしとの差は、何よりもまず食生活に表れた。台所に立ち、慣れない手つきで包丁を握りながら、「これまで食卓に並んでいたバランスの取れた食事は、親が手間暇をかけて作ってくれていたのだ」と改めて実感。掃除や洗濯も、自分自身で行ってみるとその大変さがよくわかり、両親のありがたみを強く感じた。

その一方で、東京ならではの良さももちろんある。交通網が発達しているためどこへでも足を運びやすく、趣味のライブをさまざまな会場で思う存分楽しめるのだ。好きな音楽を全身で感じていると、仕事や家事で溜まった疲れも吹き飛んでいくような気がするという。

夢に向かって、挑戦は続く

「今はまだ周りに頼ってばかりですが、いずれは他の現場でも活躍できるように、仕事の幅を広げていきたいと考えています」。

そのための目下の目標は、ネットワークやサーバー関連の新たな勉強に励むこと。社内の勉強会にも積極的に参加して、スキルを磨いていくつもりだ。「いずれはＩＴエンジニアになりたい」と語るその目は、未来を見つめて明るく輝いている。

「求人票を見るだけでは、実際の会社の雰囲気はわかりません。ぜひ説明会や面接に足を運び、デルタ総研の魅力を直に感じてみてください。入社当初は不安もあるかと思いますが、優しいメンバーがしっかりとサポートしてくれるので大丈夫です！」

かつての自分と同じ就職活動中の学生に向け、力強いメッセージを贈った磯部。2025 年４月からは「先輩社員」の一員として、次のステージへと進んでいく。

居心地の良い環境と、頼れる仲間たちに囲まれながら、充実した日々を実感している磯部。飽くなき向上心を胸に、さらなる挑戦への扉を開いていく。

だからデルタ総研で良かった!

「どんな会社なんだろう？」と疑問を抱く皆様へ。
当社は従業員の個性を尊重し、個々の才能を最大限に活かせる環境を用意しています。
社員２名のリアルな声をお聞きください！

営業部 部長
鈴木（すずき） 智之（ともゆき）さん

デルタ総研の良いところ

努力が収入に繋がる

従業員一人ひとりの努力を正当に評価し、その成果を給与に反映しているところです。お客様との信頼関係を築き、プロジェクトの成功や資格を取得することで、昇給や昇進の機会があります。頑張りが直接的に収入に直結するため、高いモチベーションを持って仕事に取り組めると思います。

仕事のやりがい

お客様の企業に参画し、事業の拡大や新しいプロジェクトに挑戦することで、やりがいを感じるとともに、大きな達成感を得ることができます。

求める人物像

コミュニケーション能力の高い方

ＩＴ業界では、コミュニケーション能力の高い人材が重要視されています。そのため、お客様の要望や立場を理解し、円滑な意思疎通が図れる方を求めています。私は家電量販店から転職してきましたが、他業界でのノウハウを活かしやすい環境だと感じています。

求職者へのメッセージ

覚悟を持って挑戦を！

ＩＴ業界で成功を志す方は、ぜひ当社にお越しください。当社は皆さんの挑戦を全力でサポートする体制を整えています。ともに成長し、ＩＴ分野で活躍できる人材を目指しましょう。

入社理由

① ＡＩに取られない仕事ができる
② 学歴・経験問わず入社できる
③ 未経験でもチャレンジできる

入社前後のギャップ

地道な作業だけではなかった！

ＩＴ業には地道な作業が多いイメージを抱いていましたが、配属先のショールームでその先入観が一新。企画担当者とのやり取りやネットワークの確認に従事し、立ち上げの効率化に努め、ショールームの構造や音響・仕組みを学習。業務内容が多岐にわたっていることを知りました。

デルタ総研での仕事のおもしろさ

行動を評価してくれる会社

ＩＴ知識皆無の私が、入社後すぐに取り組んだのが整理整頓でした。種類ごとに分け、数を把握し、収納用品の購入および片付け作業へ集中。結果、なんと年末に「ベストデザイン賞」を受賞しました！小さな変化に気づいて評価してくれるのも当社の魅力。新入社員であっても、意外とアイディアを活かせる場所があります！

デルタ総研の良いところ

親切丁寧な教育体制

メールの打ち方やツールの使い方など、研修で細かい作業を一つひとつ教えてくれます。学びたいことを重点的に教わる機会もあります。

法人サポート部
法人サポート２課
川端（かわばた） 美波（みなみ）さん

求職者へのメッセージ

環境重視の方はぜひ！

当社は初心者目線で教えてくれて、ハラスメントにもしっかりと考えてくれる会社です。安心して働ける環境が整っていますよ。

人生のスパイス

趣味の世界

「やりたいと思った瞬間がスタート！」。こう語る町口さんの趣味は、インドアからアウトドアまで多種多彩！ワクワクするような町口さんの趣味ライフは、仲間との絆や人生の豊かさに繋がっているとのことです。皆さんも一心に打ち込めるものを見つけ、人生にピリッとキリッと、刺激を加えてみませんか？

企画運用部 兼 ワイヤレス通信1部
町口（まちぐち） 一友（かずとも）さん

私の趣味は……

バイク、サッカー＆フットサル（観戦＆プレー）、サウナ、キャンプ、スキー＆スノーボード、ボディーボード

始めたきっかけ

いずれも、「やりたい！」と思った瞬間に始めました。（笑）「まずは始めてみよう！」というレッツトライの精神です。バイクについては、小学校の頃に読んだ漫画『750ライダー』や大人漫画である『キリン』に影響を受けました。

普段の楽しみ方

いずれの趣味も、そのときどきの現場で気の合うメンバーが集まっています。参加メンバーは年齢もさまざまで中には協力会社の方も。今ではすっかり友人として親しんでいます。

皆さんへ

やったことがなくても身体や気持ちがうずくなら、まずはやってみるべし！

未経験のことであっても、手を伸ばして誰かを頼りにし、常に感謝の気持ちを忘れなければ仲間が増えていくはずです。そうしてできた仲間は、自分の中でも、仕事においても、大きな財産になっています。そしてそれらはすべて、人生の豊かさに繋がっていると確信しています。

デルタ総研の新たな挑戦！
～みんなで作る社内報～

発行日は毎月15日

私が担当します！

調達部 部長
宮下（みやした） 宏隆（ひろたか）さん

この度創刊する社内報『デルタ総研だより』では、皆さんの参加を通じて、よりニーズに合った楽しいコンテンツを提供していきます。社員一人ひとりの声を大切にし、社内の多様な活動や社員の特色をフィーチャーしますので、一緒に盛り上げていきましょう！

社内報発行に向けた意気込み

皆さんの普段の仕事風景や会社の取り組みだけでなく、おいしいご飯屋さんの紹介や趣味紹介など、楽しい紙面作りを心がけます。面白い提案もお待ちしておりますので、ぜひご協力よろしくお願いします！

今後挑戦したい企画

皆さんからもアイディアをもらった企画をやってみたいと考えています。

例えば……

- ○○さんの個人的な趣味に参加してみた！
- 職場近くのおいしいご飯屋を取材してみた！

などの体験談を交えて、参加型企画にもチャレンジしてみたいと思います。